平成２２年度学生支援プロジェクト事業成果報告書

地域に根付く医学展

代表者　　白川　尚隆　（医学部医学科４年）

１．目的と概要

このプロジェクト事業の目的は、実際に香川大学医学部に入学してから、私たちがどのように医療の知識を学んでいき、そしてその知識を元に様々な医療に関する展示、体験を実施し、発表することによって、香川大学のことをより地域の方々に知って頂くことです。さらに、その展示や体験を香川大学内に留まらずに、香川大学外に発信し、より多くの地域の方々に香川大学のことを知って頂く機会を作ることを最終的な目標に定めました。

２．実施期間（実施日）

平成２２年１０月２日　から　平成２２年１０月１７日まで

３．成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、例年香川大学医学部祭において開かせて頂いており、例年多くの地域の方々に来場して頂き、人気を博しています。前年度と同じく、体験部門と展示部門を設け、展示部門では新たに、一年生が学ぶ医学概論の授業を紹介し、入学後からどのように医療知識を学んでいくかをビデオ形式で展示しました。また体験部門では、新たに血管年齢測定装置という、血圧と同時に測定者の実年齢に基づいた血管年齢、動脈硬化進行度合を測定できる、現代におけるメタボリックシンドロームの流行をとらえた最新の機器を導入し、地域の皆様に満足して頂けました。また昨年と同じく、讃岐ケーブルネットワークにて医学部祭での様子を放送して頂くなど、より多くの地域の方々にこの事業について知って頂くことができたと考えています。

さらに、前年度より継続中であった徳島文理大学香川薬学部、香川県立保健医療大学との三大学連携事業を、本年度はさらに強化し、香川大学医学部祭においての医学展共同開催に加え、イオン高松ショッピングセンターでのイベントに三大学連携事業として参加し、多くの皆様に私たちが行う事業をアピール出来、地域におけるチーム医療の形など、今後香川大学がどのように周囲の大学と活動を連携するか、といったことを話せたと思います。また三大学連携企画として、徳島文理大学の学祭において、今後行われるチーム医療の形を実際に来場者の方々に体験して頂く、という企画に参加させて頂きました。私たちはその企画で、模擬医師として患者様にある疾患に対して実際に診断を行い、電子処方箋（近年中に香川県内に導入される新しい医療管理システムで、三大学連携事業の一環である）による処方を行う、ということをしました。イオン高松ショッピングセンターでのイベントで告知した甲斐あって、多くの方に満足して頂けました。

私たちは、初めは医学展、という一つの地域貢献の形を皆様に知って頂く為にこの事業に着手してきましたが、最終的に香川県における地域医療の形を学び、またそれを少しでも多くの地位の皆様方に伝えることができたと考えています。今後も将来医療従事者となる者同士が連携し合い、香川大学のことをもっと多くの方々知って頂き、地域医療を実践していくために努力していくべきだ、と強く感じました。

４．この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、普段テレビとかでは見たことがあったとしても、実際に使ったことのない医療に関する測定器具を実際に体験することが出来、また高齢者体験、妊婦体験を実際にしてもらうことによって、高齢者や障害者の立場を体験でき、公共施設のバリアフリーなどについて考える良い機会になると考えています。ひいては、バス・電車での席を譲るなどの高齢者・障害者の方を気遣った行動をされる方々が増える一助となれば、と思います。

また、三大学連携事業においては、近い将来医療従事者になるもの同士、交流を深め、一つの地域貢献の形となる企画を実施し、完璧に洗練されたものでは無かったかもしれませんが、チーム医療を地域の皆様に提供でき、私たちが実際に医療従事者になる頃には当たり前になる医療の形を示すことができて、全く新しい地域貢献を、皆様方に提供

できたと考えています。

５．自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回の事業を通して、特に学んだことは医療の知識をしっかり学んだとしても、それを地域の方々に還元する為には、私たちが学んだ知識をそのまま伝えるだけでなく、しっかり分かりやすいように伝えなければならない、ということでした。将来私たちは医師として働く身です。その為には病状やその病気についての知識をしっかり患者様に伝えなければ意味がありません。そういったことを踏まえても、この事業で私たちが実際に学んだ経験は将来にしっかり生かされていく、と感じました。

また、上にも述べましたが、将来同じ環境で働くことになる、徳島文理大学香川薬学部の皆さん、香川県立保健医療大学の皆さんと一つの企画を作り上げ、交流を深められたことは、私たちにとって大きな経験となりました。

（医学展体験コーナーの様子）

（医学展展示コーナーの様子）

６．反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今回の一番の反省点は、初めは近くの高校や老人ホームにも展示コーナーだけでも展開させて頂こうかと考えたのですが、医学展を展開するだけの予算で予算を使い切ってしまい、作り上げたものを応用することが出来なかったことだと思います。それに代わって、三大学連携事業で新たな試みをすることができたのは、とても良かった点であっ

たと思います。

　来年度に向けては、また今回見つかった反省点を、医学展に来て頂いた方に書いて頂いたアンケートを元に考えて、今後に生かしていきたいと考えています。具体例といたしましては、人体模型のさらなる充実、希少糖や老人体験といった新しいコーナーの増設、さらには視覚的効果に重きをおき、より旬のテーマを取り上げた展示コーナーなどといった事です。また学外にも積極的に赴いて、香川大学のことをアピールしていきたいと考えています。

７．実施メンバー

代表者　白川　尚隆（医学部４年）

構成員　永井　達也（医学部４年）　　内田　俊平（医学部４年）

鄒　　仁峰（医学部４年）　　琢磨　　慧（医学部４年）

末次　史佳（医学部４年）　　萩尾　泰明（医学部４年）

林　充那登（医学部４年）